

1 題材名 めざせ手縫い名人～世界に1つだけのオリジナル小物を作ろう～

2 目標

- 身の回りの生活に役立つ布を用いた物の製作に関心を持ち、目的に応じた縫い方で製作し、その楽しさや活用する喜びを味わっている。(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 布を用いた生活に役立つ物の製作について考えたり、自分なりに工夫したりしている。(生活を創意工夫する能力)
- 製作に必要な用具の安全な取扱いや、目的に応じた手縫いができる。(生活の技能)
- 製作に必要な用具の安全な取扱い方や、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどの縫い方について理解している。(家庭生活についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、小学校学習指導要領家庭科の内容C「(3)生活に役立つ物を製作して活用できるようにする。ア布を用いて製作する物を考え、形などを工夫し、製作計画を立てること。イ手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を教えて製作し、活用できること。ウ製作に必要な用具の安全な取扱いができること。」を受けて設定されている。

本題材は、児童が裁縫道具の安全な取り扱い方、「玉どめ」「玉結び」「ぬいとり」「なみ縫い」「ボタン付け」などの手縫いの基礎的な製作技能を身に付け、生活に役立つ物を製作して活用することをねらいとしている。学習内容としては、製作計画、手縫いによる目的に応じた縫い方、製作に必要な用具の安全な取り扱い方などがある。このような学習を通して、児童が製作する喜びや楽しさを味わい、学んだことを家族の一員として、家庭で実践することにつながる。

子どもたちを取り巻く社会は、物理面でも情報面でも豊かで便利な生活となっている。最近の衣生活をみると、被服の種類も豊富に出まわっており、欲しい物を簡単に入手できる。したがって、「物をつくる」ことより「選んで買う」ことが中心になってきている。そのため、物に対する思い入れがなくなりつつある。また、衣服がほころんでいても気にしなかったり、不都合が起きた際には購入すればよいという安易な考えをもったりすることが多い。しかし、生活をよりよく豊かにしていくためには、既製の物をそのまま使うのではなく、自分の生活に合うように作り変えたり、手を加えたりすることが大切であり、物への愛着がわき、より長く物を大切に使おうという気持ちが生まれてくると考える。

この題材で、初めて裁縫道具を使い、針と糸を使って基本的な手縫いの技能を学んでいく。そして、布を使った小物づくりなどを通して、物を作る楽しさや作ったものを生活に生かす喜びを味わうことをねらいとしている。「誰に」「何を」「何のために」作るかを明確にすることで、目的をもって製作計画を考えることができる。そして、製作の過程においては、自分の思いに合った物を作り上げていく楽しさを感じ、完成したときには、手作りならではの喜びを感じることができると思う。また、児童に「自分にも作れた」「もっと作ったみたい」「次はこうしたい」という思いをもたせることができ、今後の家庭での実践につながるものと考えられる。

(2) 児童の実態及び指導観

実態調査

(平成*年*月*日実施 調査人数*人)

調査項目	調査結果
①家庭科の授業は楽しいですか。	楽しい *人 (理由) ・調理や裁縫が楽しい ・うまくなりたから ・成功したら嬉しいから

②自分で縫った経験がありますか。	ある *人	ない *人
③アイロンを使ったことがありますか。	ある *人	ない *人
④家族に手作りのプレゼントをしたことがありますか。	ある *人	ない *人
⑤手作りの布製品のよさは何だと思えますか。	・丈夫さ ・愛情がある	・自分だけの物である ・ずっと長く使える

本学級の児童は、何事にも意欲的に取り組み、男女の仲もよく、協力しながら行動することが多い。家庭科の授業を毎回とても楽しみにしており、次はどんなことをやるのかと意欲的に取り組む児童が多い。実態調査を見ると、家庭科への関心も高く、針や糸を使って小物を作ったり、アイロンを使ったりした経験のある児童もいる。また、入学したときに家族に作ってもらった布製品を今でも大切に使っている児童もおり、手作りのよさにも気付いている。

初めての基礎縫いを取得するにあたって、5年生の初めでもあり、用具の使い方や扱い方などを一つ一つ丁寧に教え、技能が確実に身に付くように繰り返し練習し、針と糸で簡単な縫い方ができるように力をつけさせたい。また、物を作る楽しさを味わいながら、作る人への気持ちを込めて、安全に楽しく製作できるように、拡大見本や資料の掲示を行い、活動が進められるようにすることが大切である。

本時では、これまでに学習した玉結び、玉どめ、なみ縫い、ボタン付けなどの技能を生かして、フェルト地を用いて小物の製作を進めることをねらいとしている。児童が主体的に活動することができるよう、目で見て分かる自作資料や縫い方の見本、アイロンなどの用具の配置を工夫する。そして、生活に役立つ小物を自分で製作することで、できる喜びを味わうことができるように支援していきたい。

4 指導計画及び評価規準（9時間扱い）

次	時	主な学習活動	評価の観点			
			家庭生活への関心 ・意欲・態度	生活を創り工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
1	1	用具の名前や扱い方を知ろう。	・身の回りの生活に役立つ布を用いた物の製作に関心をもっている。 ・製作に必要な材料や用具等を準備し、見通しをもって製作しようとする。			・製作に必要な材料や用具が分かり、製作手順について理解している。
2	2 3,4 5	玉結び・玉どめのしかたを知ろう。 いろいろなぬい方の練習やボタン付けをしよう。 クラスの本を作ろう。			・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどができる。	・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどの縫い方について理解している。
3	6 ⑦8 本時	作りたい小物の設計図を考えよう。 オリジナル小物の製作をしよう。	・手縫いに関心を持ち、目的に応じた縫い方で製作し、その楽しさや活用する喜びを味わっている。	・家庭生活での布の活用について見直し、製作する物やその製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 ・目的に応じた縫い方で考えたり、自分なりに工夫したりしている。	・目的に応じて手縫いで製作することができる。 ・製作に必要な用具の安全な取扱いができる。	・製作に必要な用具の安全な取扱いについて理解している。

	9 小物の作品の発表会をしよう。		・製作した物を自分の生活で活用し、改善点を考えたり、自分なりに工夫したりしている。
--	------------------	--	---

5 本時の指導

(1) 目標

- ・製作に必要な用具を安全に扱い、縫い方を工夫して小物の製作をすることができる。

(2) 準備・資料

- ・縫い方の掲示資料 ・作品例 ・フェルト ・裁縫道具 ・玉結び、玉どめの資料 ・ボタン付けの手順
- ・アイロン ・アイロン台 ・自己評価カード ・製作計画表 ・振り返りカード

(3) 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	指導上の留意点・評価 (◎は評価)
<p>1 本時の課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>用具を安全に使って、小物作りをしよう。</p> </div> <p>2 用具の扱い方と、小物の製作の手順を確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイロンの使い方 ・指ぬきの使い方 ・玉結び・玉どめの場所 ・製作の手順の確認 <p>3 小物の製作をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・針の数の確認 ・製作の手順に従って進める。 ・もらう人のことを考えて気持ちを込めて製作する。 <p>4 本時の学習のまとめをし、次時の学習課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した玉結び・玉どめなどの技能を生かして、用具を安全に使って小物を製作していくことを伝える。 ・アイロンを使って小物を製作する児童もいるので、アイロンの安全な使い方について全体で確認する。 ・指ぬきを有効に使うことができるよう、使い方を確認する。 ・玉結び・玉どめが表に出ないように伝える。 ・縫い始めや取り出し口・縫い終わりは、丈夫になるよう、作品に応じて一針か二針返して縫うことを伝える。 ・針の数を確認してから始めることを確認する。 ・針を通すのに時間がかかる児童には、あらかじめ、針に糸を通しておくように伝えておく。 ・製作の手順を確認しながら、製作を進めるよう伝える。 ・針の本数やアイロンの後始末の仕方に気を付けながら、後片付けをするよう伝える。 <p>◎ 縫い方が分からなくなったときは、掲示物や資料をいつでも見られるコーナーを設置しておく。 友達同士で教えてもらったり、やり方を見せてもらったりするよう助言する。</p> <p>◎ 製作に必要な用具を安全に扱い、小物の製作をすることができる。 (③作業・自己評価カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、小物を製作した感想をワークシートに書くように伝える。次時は、小物を仕上げることを伝える。